

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	萩原 かおり
主な担当科目	実技個人レッスン[ヴォーカル①②③④]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	新型コロナウイルス感染症流行の影響が続く中、昨年度に引き続き、コロナの感染状況を見極め、学生の安全を考慮しつつ、授業内容、運営方法などを研究し、音楽大学としての学びをできる限り守ることができるようレッスン、授業に臨みたい。また、このような状況下でも何が学べるのか、何をすべきなのかを自ら考えることのできる力を育てたい。 個人レッスンにおいては、個人レッスンであることの特徴を活かし、それぞれの学生の4年間を見据えた上での指導を行いたいと考える。
2022年の教育に関する自己評価	イレギュラーな状況の中でも各教員と連絡を取り合い、現状で出来得る限りの学びへの取り組みを行うことができたのではないかなと思う。また、学生にもその姿勢を伝えることはできたと思う。 しかし、カリキュラム全体における個々の授業の役割については、各教員にFD研修会などで伝えてはいるものの、徹底されていないものもあった様に見受けられるので、今後はそちらもしっかりと共有して行きたい。 個人レッスンにおいては、低学年では基礎を徹底し、学年が上がるにつれて、それぞれの成長に合わせた指導を心掛けたが、その良い成果も得られたと感じている。
2022年のFD活動に関する自己評価	大学におけるミュージカル教育の意義、カリキュラム全体の中でそれぞれの授業が持つ役割を教員間で共有できる様カリキュラムツリーを示すと共に、意見交換を行い、各教員間での連携も図れるよう努めた。
授業改善のために取り入れた研修内容	FD研修会において毎回、ミュージカルコースカリキュラムツリーを示し、各科目の連携が図れるよう、ミュージカルコースとしてのカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの確認を行った。

科目名－クラス名

## ヴォーカル①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	1～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ミュージカルコース1年次必修科目であり、個人レッスンを通して、歌唱の基本的技術と表現を学ぶ。1年次は、先ずクラシックの技術に基づいた呼吸法・発声法の基礎を、訓練を積み重ねながら体得して行く。課題曲を選定し、発声と共に表現の為の技術も学ぶ。4年次までに8回ある実技試験の内、少なくともそれぞれに1回ずつ、日本語及び英語で歌う事。

## 学修成果

歌うための呼吸法、発声法、及び共鳴する声を身に付けることが出来る。楽譜に対する理解力が深まる。

## 授業展開と内容

第1回	・前期目標の確認 ・担当教員とのコミュニケーションを図る
第2回	・呼吸法及び発声の基礎についての説明と実践
第3回	・呼吸法及び発声の基礎① 実技は繰り返し学ぶ事が重要なため、毎回実践を重ねつつ問題点を解決して行く
第4回	・呼吸法及び発声の基礎② ・力量に応じて歌唱教材Ⅰの選定を行う
第5回	・呼吸法及び発声の基礎③ ・正確な音程とリズムで歌唱教材Ⅰを読譜する
第6回	・呼吸法及び発声の基礎④ ・正確な音程とリズムでの歌唱を実践し、楽曲全体の構造を理解する
第7回	・呼吸法及び発声の基礎⑤ ・歌詞の理解におけるアプローチ法を学ぶ
第8回	・呼吸法及び発声の基礎⑥ ・歌詞についての理解を深める
第9回	・呼吸法及び発声の基礎⑦ ・表現の多様性について学ぶ
第10回	・呼吸法及び発声の基礎⑧ ・自身の表現法を探りつつ、演奏の完成度を高める
第11回	・呼吸法及び発声の基礎⑨ ・試験曲Ⅰの選定及び読譜
第12回	・呼吸法及び発声の基礎⑩ ・試験曲Ⅰの楽曲としての構造、及び試験曲Ⅰのおかれた作品全体を理解する
第13回	・呼吸法及び発声の基礎⑪ ・試験曲Ⅰの歌詞の理解を深める
第14回	・呼吸法及び発声の基礎⑫ ・試験曲Ⅰの表現における理解を深める
第15回	・呼吸法及び発声の基礎⑬ ・試験曲Ⅰの演奏の完成度を高める
第16回	・後期目標の確認 ・歌唱教材Ⅱの選定
第17回	・共鳴について学ぶ ・歌唱教材Ⅱの読譜
第18回	・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練① ・歌唱教材Ⅱの構造、及びそれがおかれた作品全体を理解する
第19回	・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練② ・歌唱教材Ⅱの歌詞の理解、及び表現における理解を深める
第20回	・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練③ ・歌唱教材Ⅱの演奏の完成度を高める

- 第21回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練④  
・各自の進み具合に応じて新しい曲を選定する
- 第22回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑤  
・歌唱教材Ⅲの読譜を行い、構造を理解する
- 第23回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑥  
・歌唱教材Ⅲのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第24回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑦  
・歌唱教材Ⅲの表現における理解を深める
- 第25回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑧  
・歌唱教材Ⅲの演奏の完成度を高める
- 第26回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑨  
・試験曲Ⅱの選定を行う
- 第27回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑩  
・試験曲Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
- 第28回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑪  
・試験曲Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第29回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑫  
・試験曲Ⅱの表現における理解を深める
- 第30回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑬  
・試験曲Ⅱの演奏の完成度を高める

#### 履修上の注意

個人レッスン故、各々の能力に応じて最適な教授法が取られるため、進み具合は上記とは異なる場合がある。

試験曲は前期・後期ともに1966年までに初演された作品から選出し、担当の教員と相談して3分以内にまとめる事。伴奏合わせは2回行うことが義務づけられている。

レッスンには必要に応じて伴奏譜も用意すること。

やむをえず遅刻・欠席する場合は必ず担当教員に連絡を入れること。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎日の発声練習はもちろんの事、譜読み、楽曲に関する様々な角度からの考察を含め、予習（30分程度）と復習（30分程度）は常に積極的に行うこと。

自己管理を怠らず欠席をしないよう心がけること。

#### 教科書・参考書

担当教員と相談の事。

科目名－クラス名

## ヴォーカル①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	1～	通年	4	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ミュージカルコース1年次必修科目であり、個人レッスンを通して、歌唱の基本的技術と表現を学ぶ。1年次は、先ずクラシックの技術に基づいた呼吸法・発声法の基礎を、訓練を積み重ねながら体得して行く。課題曲を選定し、発声と共に表現の為の技術も学ぶ。4年次までに8回ある実技試験の内、少なくともそれぞれに1回ずつ、日本語及び英語で歌う事。

## 学修成果

歌うための呼吸法、発声法、及び共鳴する声を身に付けることが出来る。楽譜に対する理解力が深まる。

## 授業展開と内容

第1回	・前期目標の確認 ・担当教員とのコミュニケーションを図る
第2回	・呼吸法及び発声の基礎についての説明と実践
第3回	・呼吸法及び発声の基礎① 実技は繰り返し学ぶ事が重要なため、毎回実践を重ねつつ問題点を解決して行く
第4回	・呼吸法及び発声の基礎② ・力量に応じて歌唱教材Ⅰの選定を行う
第5回	・呼吸法及び発声の基礎③ ・正確な音程とリズムで歌唱教材Ⅰを読譜する
第6回	・呼吸法及び発声の基礎④ ・正確な音程とリズムでの歌唱を実践し、楽曲全体の構造を理解する
第7回	・呼吸法及び発声の基礎⑤ ・歌詞の理解におけるアプローチ法を学ぶ
第8回	・呼吸法及び発声の基礎⑥ ・歌詞についての理解を深める
第9回	・呼吸法及び発声の基礎⑦ ・表現の多様性について学ぶ
第10回	・呼吸法及び発声の基礎⑧ ・自身の表現法を探りつつ、演奏の完成度を高める
第11回	・呼吸法及び発声の基礎⑨ ・試験曲Ⅰの選定及び読譜
第12回	・呼吸法及び発声の基礎⑩ ・試験曲Ⅰの楽曲としての構造、及び試験曲Ⅰのおかれた作品全体を理解する
第13回	・呼吸法及び発声の基礎⑪ ・試験曲Ⅰの歌詞の理解を深める
第14回	・呼吸法及び発声の基礎⑫ ・試験曲Ⅰの表現における理解を深める
第15回	・呼吸法及び発声の基礎⑬ ・試験曲Ⅰの演奏の完成度を高める
第16回	・後期目標の確認 ・歌唱教材Ⅱの選定
第17回	・共鳴について学ぶ ・歌唱教材Ⅱの読譜
第18回	・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練① ・歌唱教材Ⅱの構造、及びそれがおかれた作品全体を理解する
第19回	・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練② ・歌唱教材Ⅱの歌詞の理解、及び表現における理解を深める
第20回	・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練③ ・歌唱教材Ⅱの演奏の完成度を高める

- 第21回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練④  
・各自の進み具合に応じて新しい曲を選定する
- 第22回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑤  
・歌唱教材Ⅲの読譜を行い、構造を理解する
- 第23回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑥  
・歌唱教材Ⅲのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第24回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑦  
・歌唱教材Ⅲの表現における理解を深める
- 第25回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑧  
・歌唱教材Ⅲの演奏の完成度を高める
- 第26回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑨  
・試験曲Ⅱの選定を行う
- 第27回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑩  
・試験曲Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
- 第28回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑪  
・試験曲Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第29回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑫  
・試験曲Ⅱの表現における理解を深める
- 第30回 ・呼吸法及び発声の基礎、共鳴のための訓練⑬  
・試験曲Ⅱの演奏の完成度を高める

#### 履修上の注意

個人レッスン故、各々の能力に応じて最適な教授法が取られるため、進み具合は上記とは異なる場合がある。

試験曲は前期・後期ともに1966年までに初演された作品から選出し、担当の教員と相談して3分以内にまとめる事。伴奏合わせは2回行うことが義務づけられている。

レッスンには必要に応じて伴奏譜も用意すること。

やむをえず遅刻・欠席する場合は必ず担当教員に連絡を入れること。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎日の発声練習はもちろんの事、譜読み、楽曲に関する様々な角度からの考察を含め、予習（30分程度）と復習（30分程度）は常に積極的に行うこと。

自己管理を怠らず欠席をしないよう心がけること。

#### 教科書・参考書

担当教員と相談の事。

科目名－クラス名

## ヴォーカル②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	2～	通年	4	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ミュージカルコース2年次必修科目であり、個人レッスンを通して、歌唱の技術と表現を学ぶ。1年次に学んだ技術を基に、ミュージカルに適した発声・歌唱法及び表現法を学ぶ。1年次から4年次まで全8回ある実技試験の内、少なくともそれぞれに1回ずつ、日本語及び英語で歌う事。

## 学修成果

歌うために必要な技術を身に付けることが出来る。ミュージカルに適した発声・歌唱及び表現法を学ぶ事が出来る。

## 授業展開と内容

- 第1回 ・前期目標の確認  
・歌唱教材Ⅰの選定
- 第2回 ・1年次に身に付けた発声の復習、及びミュージカルに適した発声についてのガイダンス  
・歌唱教材Ⅰによる読譜
- 第3回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声①  
・歌唱教材Ⅰの構造、及びそれがおかれた作品全体を理解する
- 第4回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声②  
・歌唱教材Ⅰの歌詞の理解及び表現における理解を深める
- 第5回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声③  
・歌唱教材Ⅰの演奏の完成度を高める
- 第6回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声④  
・各自の進み具合に応じて新しい曲を選定する
- 第7回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑤  
・歌唱教材Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
- 第8回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑥  
・歌唱教材Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第9回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑦  
・歌唱教材Ⅱの表現における理解を深める
- 第10回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑧  
・歌唱教材Ⅱの演奏の完成度を高める
- 第11回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑨  
・試験曲Ⅰを選定する
- 第12回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑩  
・試験曲Ⅰの読譜を行い、構造を理解する
- 第13回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑪  
・試験曲Ⅰのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第14回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑫  
・試験曲Ⅰの表現における理解を深める
- 第15回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑬  
・試験曲Ⅰの演奏の完成度を高める
- 第16回 ・後期目標の確認  
・歌唱教材Ⅲの選定
- 第17回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑭  
・歌唱教材Ⅲの読譜を行い、構造を理解する
- 第18回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑮  
・歌唱教材Ⅲのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第19回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑯  
・歌唱教材Ⅲの表現における理解を深める
- 第20回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑰

・歌唱教材Ⅲの演奏の完成度を高める

第21回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑱  
・各自の進み具合に応じて新しい曲を選定する

第22回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑲  
・歌唱教材Ⅳの読譜を行い、構造を理解する

第23回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑳  
・歌唱教材Ⅳのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める

第24回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？  
・歌唱教材Ⅳの表現における理解を深める

第25回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？  
・歌唱教材Ⅳの演奏の完成度を高める

第26回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？  
・試験曲Ⅱを選定をする

第27回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？  
・試験曲Ⅱの理読譜を行い、構造を理解する

第28回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？  
・試験曲Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める

第29回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？  
・試験曲Ⅱの表現における理解を深める

第30回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？  
・試験曲Ⅱの演奏の完成度を高める

#### 履修上の注意

個人レッスン故、各々の能力に応じて最適な教授法が取られるため、進み具合は上記とは異なる場合がある。  
試験曲は前期・後期とも担当の教員と相談して3分以内にまとめる事。伴奏合わせは2回行うことが義務づけられている。  
レッスンには必要に応じて伴奏譜も用意すること。  
やむをえず遅刻・欠席する場合は必ず担当教員に連絡を入れること。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎日の発声練習はもちろんの事、譜読み、楽曲に関する様々な角度からの考察を含め、予習（30分程度）と復習（30分程度）は常に積極的に行うこと。  
自己管理を怠らず欠席をしないよう心がけること。

#### 教科書・参考書

担当教員と相談の事。

科目名－クラス名

## ヴォーカル②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	2～	通年	4	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ミュージカルコース2年次必修科目であり、個人レッスンを通して、歌唱の技術と表現を学ぶ。1年次に学んだ技術を基に、ミュージカルに適した発声・歌唱法及び表現法を学ぶ。1年次から4年次まで全8回ある実技試験の内、少なくともそれぞれに1回ずつ、日本語及び英語で歌う事。

## 学修成果

歌うために必要な技術を身に付けることが出来る。ミュージカルに適した発声・歌唱及び表現法を学ぶ事が出来る。

## 授業展開と内容

- 第1回
- ・前期目標の確認
  - ・歌唱教材Ⅰの選定
- 第2回
- ・1年次に身に付けた発声の復習、及びミュージカルに適した発声についてのガイダンス
  - ・歌唱教材Ⅰによる読譜
- 第3回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声①
  - ・歌唱教材Ⅰの構造、及びそれがおかれた作品全体を理解する
- 第4回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声②
  - ・歌唱教材Ⅰの歌詞の理解及び表現における理解を深める
- 第5回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声③
  - ・歌唱教材Ⅰの演奏の完成度を高める
- 第6回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声④
  - ・各自の進み具合に応じて新しい曲を選定する
- 第7回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑤
  - ・歌唱教材Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
- 第8回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑥
  - ・歌唱教材Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第9回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑦
  - ・歌唱教材Ⅱの表現における理解を深める
- 第10回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑧
  - ・歌唱教材Ⅱの演奏の完成度を高める
- 第11回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑨
  - ・試験曲Ⅰを選定する
- 第12回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑩
  - ・試験曲Ⅰの読譜を行い、構造を理解する
- 第13回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑪
  - ・試験曲Ⅰのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第14回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑫
  - ・試験曲Ⅰの表現における理解を深める
- 第15回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑬
  - ・試験曲Ⅰの演奏の完成度を高める
- 第16回
- ・後期目標の確認
  - ・歌唱教材Ⅲの選定
- 第17回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑭
  - ・歌唱教材Ⅲの読譜を行い、構造を理解する
- 第18回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑮
  - ・歌唱教材Ⅲのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第19回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑯
  - ・歌唱教材Ⅲの表現における理解を深める
- 第20回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑰



・歌唱教材Ⅲの演奏の完成度を高める

- 第21回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑱
  - ・各自の進み具合に応じて新しい曲を選定する

- 第22回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑲
  - ・歌唱教材Ⅳの読譜を行い、構造を理解する

- 第23回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑳
  - ・歌唱教材Ⅳのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める

- 第24回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉑
  - ・歌唱教材Ⅳの表現における理解を深める

- 第25回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉒
  - ・歌唱教材Ⅳの演奏の完成度を高める

- 第26回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉓
  - ・試験曲Ⅱを選定をする

- 第27回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉔
  - ・試験曲Ⅱの理読譜を行い、構造を理解する

- 第28回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉕
  - ・試験曲Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める

- 第29回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉖
  - ・試験曲Ⅱの表現における理解を深める

- 第30回
- ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉗
  - ・試験曲Ⅱの演奏の完成度を高める

#### 履修上の注意

個人レッスン故、各々の能力に応じて最適な教授法が取られるため、進み具合は上記とは異なる場合がある。  
試験曲は前期・後期とも担当の教員と相談して3分以内にまとめる事。伴奏合わせは2回行うことが義務づけられている。  
レッスンには必要に応じて伴奏譜も用意すること。  
やむをえず遅刻・欠席する場合は必ず担当教員に連絡を入れること。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎日の発声練習はもちろんの事、譜読み、楽曲に関する様々な角度からの考察を含め、予習（30分程度）と復習（30分程度）は常に積極的に行うこと。  
自己管理を怠らず欠席をしないよう心がけること。

#### 教科書・参考書

担当教員と相談の事。

科目名－クラス名

## ヴォーカル③

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	3～	通年	4	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ミュージカルコース3年次必修科目であり、個人レッスンを通して、歌唱の技術と表現を学ぶ。1・2年次に身に付けた技術を基に、多岐に渡るミュージカル作品の中から様々な課題にチャレンジし、レパートリーを広げる。1年次から4年次まで全8回ある実技試験の内、少なくともそれぞれに1回ずつ、日本語及び英語で歌う事。

## 学修成果

ミュージカルに適した発声・歌唱・表現法を身に付け、多岐に渡るミュージカル作品の中から様々な楽曲に挑戦することが出来、広いレパートリーを持つことが出来る。

## 授業展開と内容

- 第1回 ・前期目標の確認  
・多岐に渡るミュージカル作品から数曲を抜粋し、歌唱教材Ⅰの選定を行う
- 第2回 ・2年次に身に付けた発声の復習、及びミュージカルに適した歌唱法についてのガイダンス  
・歌唱教材Ⅰの読譜
- 第3回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声①  
・歌唱教材Ⅰの構造、及びそれがおかれた作品全体を理解する
- 第4回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声②  
・歌唱教材Ⅰの歌詞の理解及び表現における理解を深める
- 第5回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声③  
・歌唱教材Ⅰの演奏の完成度を高める
- 第6回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声④  
・進み具合に応じてタイプの違う歌唱教材Ⅱを選定する
- 第7回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑤  
・歌唱教材Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
- 第8回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑥  
・歌唱教材Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第9回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑦  
・歌唱教材Ⅱの表現における理解を深める
- 第10回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑧  
・歌唱教材Ⅱの演奏の完成度を高める
- 第11回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑨  
・試験曲Ⅰを選定する
- 第12回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑩  
・試験曲Ⅰの読譜を行い、構造を理解する
- 第13回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑪  
・試験曲Ⅰのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第14回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑫  
・試験曲Ⅰの表現における理解を深める
- 第15回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑬  
・試験曲Ⅰの演奏の完成度を高める
- 第16回 ・後期目標の確認  
・前期とは違うタイプの曲を歌唱教材Ⅲとして選定する
- 第17回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑭  
・歌唱教材Ⅲの読譜を行い、構造を理解する
- 第18回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑮  
・歌唱教材Ⅲのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第19回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑯  
・歌唱教材Ⅲの表現における理解を深める

第20回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑰ ・ 歌唱教材Ⅲの演奏の完成度を高める
第21回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑱ ・ 進み具合に応じてタイプの違う歌唱教材Ⅳを選定する
第22回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑲ ・ 歌唱教材Ⅳの読譜を行い、構造を理解する
第23回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑳ ・ 歌唱教材Ⅳのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第24回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 歌唱教材Ⅳの表現における理解を深める
第25回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 歌唱教材Ⅳの演奏の完成度を高める
第26回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱを選定する
第27回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
第28回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第29回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱの表現における理解を深める
第30回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱの演奏の完成度を高める

#### 履修上の注意

個人レッスン故、各々の能力に応じて最適な教授法が取られるため、進み具合は上記とは異なる場合がある。  
試験曲は前期・後期とも担当の教員と相談して3分以内にまとめる事。伴奏合わせは2回行うことが義務づけられている。  
レッスンには必要に応じて伴奏譜も用意すること。  
やむをえず遅刻・欠席する場合は必ず担当教員に連絡を入れること。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎日の発声練習はもちろんの事、譜読み、楽曲に関する様々な角度からの考察を含め、予習（30分程度）と復習（30分程度）は常に積極的に行うこと。  
自己管理を怠らず欠席をしないよう心がけること。

#### 教科書・参考書

担当教員と相談の事。

科目名－クラス名

## ヴォーカル③

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	3～	通年	4	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ミュージカルコース3年次必修科目であり、個人レッスンを通して、歌唱の技術と表現を学ぶ。1・2年次に身に付けた技術を基に、多岐に渡るミュージカル作品の中から様々な課題にチャレンジし、レパートリーを広げる。1年次から4年次まで全8回ある実技試験の内、少なくともそれぞれに1回ずつ、日本語及び英語で歌う事。

## 学修成果

ミュージカルに適した発声・歌唱・表現法を身に付け、多岐に渡るミュージカル作品の中から様々な楽曲に挑戦することが出来、広いレパートリーを持つことが出来る。

## 授業展開と内容

- 第1回 ・前期目標の確認  
・多岐に渡るミュージカル作品から数曲を抜粋し、歌唱教材Ⅰの選定を行う
- 第2回 ・2年次に身に付けた発声の復習、及びミュージカルに適した歌唱法についてのガイダンス  
・歌唱教材Ⅰの読譜
- 第3回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声①  
・歌唱教材Ⅰの構造、及びそれがおかれた作品全体を理解する
- 第4回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声②  
・歌唱教材Ⅰの歌詞の理解及び表現における理解を深める
- 第5回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声③  
・歌唱教材Ⅰの演奏の完成度を高める
- 第6回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声④  
・進み具合に応じてタイプの違う歌唱教材Ⅱを選定する
- 第7回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑤  
・歌唱教材Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
- 第8回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑥  
・歌唱教材Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第9回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑦  
・歌唱教材Ⅱの表現における理解を深める
- 第10回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑧  
・歌唱教材Ⅱの演奏の完成度を高める
- 第11回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑨  
・試験曲Ⅰを選定する
- 第12回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑩  
・試験曲Ⅰの読譜を行い、構造を理解する
- 第13回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑪  
・試験曲Ⅰのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第14回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑫  
・試験曲Ⅰの表現における理解を深める
- 第15回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑬  
・試験曲Ⅰの演奏の完成度を高める
- 第16回 ・後期目標の確認  
・前期とは違うタイプの曲を歌唱教材Ⅲとして選定する
- 第17回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑭  
・歌唱教材Ⅲの読譜を行い、構造を理解する
- 第18回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑮  
・歌唱教材Ⅲのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
- 第19回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑯  
・歌唱教材Ⅲの表現における理解を深める

第20回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑰ ・ 歌唱教材Ⅲの演奏の完成度を高める
第21回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑱ ・ 進み具合に応じてタイプの違う歌唱教材Ⅳを選定する
第22回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑲ ・ 歌唱教材Ⅳの読譜を行い、構造を理解する
第23回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑳ ・ 歌唱教材Ⅳのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第24回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉑ ・ 歌唱教材Ⅳの表現における理解を深める
第25回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉒ ・ 歌唱教材Ⅳの演奏の完成度を高める
第26回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉓ ・ 試験曲Ⅱを選定する
第27回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉔ ・ 試験曲Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
第28回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉕ ・ 試験曲Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第29回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉖ ・ 試験曲Ⅱの表現における理解を深める
第30回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉗ ・ 試験曲Ⅱの演奏の完成度を高める

#### 履修上の注意

個人レッスン故、各々の能力に応じて最適な教授法が取られるため、進み具合は上記とは異なる場合がある。  
試験曲は前期・後期とも担当の教員と相談して3分以内にまとめる事。伴奏合わせは2回行うことが義務づけられている。  
レッスンには必要に応じて伴奏譜も用意すること。  
やむをえず遅刻・欠席する場合は必ず担当教員に連絡を入れること。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎日の発声練習はもちろんの事、譜読み、楽曲に関する様々な角度からの考察を含め、予習（30分程度）と復習（30分程度）は常に積極的に行うこと。  
自己管理を怠らず欠席をしないよう心がけること。

#### 教科書・参考書

担当教員と相談の事。

科目名－クラス名

## ヴォーカル④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ミュージカルコース4年次必修科目であり、個人レッスンを通して、歌唱の技術と表現を学ぶ。3年次に挑戦した多岐に渡るミュージカル作品の中から、各自の適性に合うものを見極めると同時に更にレパートリーを広げ、卒業後にミュージカル俳優として活動して行けるに足る十分な歌唱力を身に付ける。1年次から4年次まで全8回ある実技試験の内、少なくともそれぞれに1回ずつ、日本語及び英語で歌う事。

## 学修成果

多岐に渡るミュージカル作品の中から、自分の適性に合うものを見つけることが出来、それを基に更にレパートリーを広げることが出来る。的確な読譜力・技術力・表現力を身に付け、卒業後にミュージカル俳優としてのキャリアを積む上で、充分に力を発揮することが出来るようになる。

## 授業展開と内容

第1回 ・卒業年次目標の確認 適性について話し合い、相応しいと思われる楽曲を数曲選んだ上で歌唱教材Ⅰを選定

第2回 ・これまでに身に付けた発声法の復習と今後学ぶべき課題の確認  
・歌唱教材Ⅰの読譜

第3回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声①  
・歌唱教材Ⅰの構造、及びそれがおかれた作品全体を理解する

第4回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声②  
・歌唱教材Ⅰの歌詞の理解及び表現における理解を深める

第5回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声③  
・歌唱教材Ⅰの演奏の完成度を高める

第6回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声④  
・各自の進み具合に応じて、学習目標に即した高度な技術を要する歌唱教材Ⅱを選定

第7回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑤  
・歌唱教材Ⅱの読譜を行い、構造を理解する

第8回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑥  
・歌唱教材Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める

第9回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑦  
・歌唱教材Ⅱの表現における理解を深める

第10回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑧  
・歌唱教材Ⅱの演奏の完成度を高める

第11回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑨  
・学習目標に即した試験曲Ⅰの選定を行う

第12回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑩  
・試験曲Ⅰの読譜を行い、構造を理解する

第13回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑪  
・試験曲Ⅰのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める

第14回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑫  
・試験曲Ⅰの表現における理解を深める

第15回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑬  
・試験曲Ⅰの演奏の完成度を高める

第16回 ・卒業年次目標の達成度及び今後の課題についての確認  
・学習目標に即した歌唱教材Ⅲの選定を行う

第17回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑭ 歌  
・唱教材Ⅲの読譜を行い、構造を理解する

第18回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑮  
・歌唱教材Ⅲのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める

第19回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑯  
・歌唱教材Ⅲの表現における理解を深める

第20回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑰ ・ 歌唱教材Ⅲの演奏の完成度を高める
第21回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑱ ・ 各自の進み具合に応じて、適性を活かし更に高度な技術を修得出来る歌唱教材Ⅳを選定
第22回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑲ ・ 歌唱教材Ⅳの読譜を行い、構造を理解する
第23回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑳ ・ 歌唱教材Ⅳのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第24回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 歌唱教材Ⅳの表現における理解を深める
第25回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 歌唱教材Ⅳの演奏の完成度を高める
第26回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 各自の力量を十分に発揮できる楽曲を試験曲Ⅱとして選定する
第27回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
第28回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第29回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱの表現における理解を深める
第30回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声？ ・ 試験曲Ⅱの演奏の完成度を高める

#### 履修上の注意

個人レッスン故、各々の能力に応じて最適な教授法が取られるため、進み具合は上記とは異なる場合がある。  
試験曲は担当の教員と相談して、前期、後期とも4分以内にまとめる事。伴奏合わせは2回行うことが義務づけられている。  
レッスンには必要に応じて伴奏譜を用意すること。  
やむをえず遅刻・欠席する場合は必ず担当教員に連絡を入れること。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎日の発声練習はもちろんの事、譜読み、楽曲に関する様々な角度からの考察を含め、予習（30分程度）と復習（30分程度）は常に積極的に行うこと。  
自己管理を怠らず欠席をしないよう心がけること。

#### 教科書・参考書

担当教員と相談の事。

科目名－クラス名

## ヴォーカル④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ミュージカルコース4年次必修科目であり、個人レッスンを通して、歌唱の技術と表現を学ぶ。3年次に挑戦した多岐に渡るミュージカル作品の中から、各自の適性に合うものを見極めると同時に更にレパートリーを広げ、卒業後にミュージカル俳優として活動して行けるに足る十分な歌唱力を身に付ける。1年次から4年次まで全8回ある実技試験の内、少なくともそれぞれに1回ずつ、日本語及び英語で歌う事。

## 学修成果

多岐に渡るミュージカル作品の中から、自分の適性に合うものを見つけることが出来、それを基に更にレパートリーを広げることが出来る。的確な読譜力・技術力・表現力を身に付け、卒業後にミュージカル俳優としてのキャリアを積む上で、充分に力を発揮することが出来るようになる。

## 授業展開と内容

第1回 ・卒業年次目標の確認 適性について話し合い、相応しいと思われる楽曲を数曲選んだ上で歌唱教材Ⅰを選定

第2回 ・これまでに身に付けた発声法の復習と今後学ぶべき課題の確認  
・歌唱教材Ⅰの読譜

第3回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声①  
・歌唱教材Ⅰの構造、及びそれがおかれた作品全体を理解する

第4回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声②  
・歌唱教材Ⅰの歌詞の理解及び表現における理解を深める

第5回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声③  
・歌唱教材Ⅰの演奏の完成度を高める

第6回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声④  
・各自の進み具合に応じて、学習目標に即した高度な技術を要する歌唱教材Ⅱを選定

第7回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑤  
・歌唱教材Ⅱの読譜を行い、構造を理解する

第8回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑥  
・歌唱教材Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める

第9回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑦  
・歌唱教材Ⅱの表現における理解を深める

第10回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑧  
・歌唱教材Ⅱの演奏の完成度を高める

第11回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑨  
・学習目標に即した試験曲Ⅰの選定を行う

第12回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑩  
・試験曲Ⅰの読譜を行い、構造を理解する

第13回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑪  
・試験曲Ⅰのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める

第14回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑫  
・試験曲Ⅰの表現における理解を深める

第15回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑬  
・試験曲Ⅰの演奏の完成度を高める

第16回 ・卒業年次目標の達成度及び今後の課題についての確認  
・学習目標に即した歌唱教材Ⅲの選定を行う

第17回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑭ 歌  
・唱教材Ⅲの読譜を行い、構造を理解する

第18回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑮  
・歌唱教材Ⅲのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める

第19回 ・基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑯  
・歌唱教材Ⅲの表現における理解を深める



第20回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑰ ・ 歌唱教材Ⅲの演奏の完成度を高める
第21回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑱ ・ 各自の進み具合に応じて、適性を活かし更に高度な技術を修得出来る歌唱教材Ⅳを選定
第22回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑲ ・ 歌唱教材Ⅳの読譜を行い、構造を理解する
第23回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声⑳ ・ 歌唱教材Ⅳのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第24回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉑ ・ 歌唱教材Ⅳの表現における理解を深める
第25回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉒ ・ 歌唱教材Ⅳの演奏の完成度を高める
第26回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉓ ・ 各自の力量を十分に発揮できる楽曲を試験曲Ⅱとして選定する
第27回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉔ ・ 試験曲Ⅱの読譜を行い、構造を理解する
第28回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉕ ・ 試験曲Ⅱのおかれた作品全体を理解し、歌詞の理解を深める
第29回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉖ ・ 試験曲Ⅱの表現における理解を深める
第30回	・ 基本的な発声法に基づいたミュージカル発声㉗ ・ 試験曲Ⅱの演奏の完成度を高める

#### 履修上の注意

個人レッスン故、各々の能力に応じて最適な教授法が取られるため、進み具合は上記とは異なる場合がある。  
試験曲は担当の教員と相談して、前期、後期とも4分以内にまとめる事。伴奏合わせは2回行うことが義務づけられている。  
レッスンには必要に応じて伴奏譜を用意すること。  
やむをえず遅刻・欠席する場合は必ず担当教員に連絡を入れること。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎日の発声練習はもちろんの事、譜読み、楽曲に関する様々な角度からの考察を含め、予習（30分程度）と復習（30分程度）は常に積極的に行うこと。  
自己管理を怠らず欠席をしないよう心がけること。

#### 教科書・参考書

担当教員と相談の事。

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2099 教員名：萩原 かおり

### 1) 評価結果に対する所見

#### 「ミュージカル・ワークショップ」について

記入者が少ないのは気になるが、基本的に全員良い評価であることから、今後もこの方向で授業を進めていきたい。

#### 「演技演習Ⅱ」について

こちらも記入者が少ないのは気になるが、概ね良い評価であり、自由記述からも、学年が上がっての学びにもつながることを学生たちも自覚し、前向きな態度で臨んでいることが窺われる。

### 2) 要望への対応・改善方策

どちらも概ね良い評価であることから、現在の方向で学生たちの学びを高めていきたい。

### 3) 今後の課題

特になし。

以 上